図書館講演会 開催報告 令和6年11月30日（土）

「『源氏物語』の時代の女性・家族」

歴史学者で埼玉学園大学名誉教授の服藤早苗先生をお招きし、「『源氏物語』の時代の女性・家族」というテーマでご講演いただきました。

大河ドラマ「光る君へ」でも注目された平安時代の女性たちの世界ですが、時代が古いこともあってか、あまり知られていない事柄も多いように思います。今回は、家族史や女性史を中心に長年研究を続けてこられた服藤先生だからこそできるお話の数々をたっぷりと披露していただきました。

ご講演は、まず大河ドラマの話題から始まりました。大河ドラマで描かれた内容と史料に残っている史実との相違点や、ドラマ内で先生が着目したポイントなどについてのお話から、「藤原宣孝との結婚は紫式部にとって初めての結婚だったのか」、「『源氏物語』の執筆に使用した紙は本当に藤原道長が調達したものだったのか」など、興味深い内容が続き、参加された方たちも驚いたり納得したりしながら、熱心に聞かれていました。

ご講演の後半では、藤原道長と倫子の子で一条天皇に入内した藤原彰子の人生について、『御堂関白記』や『左経記』、『小右記』などの記述を読みながら、詳しくお話しいただきました。

当時の彰子の行動や発言などが記録されている史料を、先生とともに読み、解説を聞くことで、そ

の人柄や、「国母」としての姿が、鮮やかに浮かび上がってきます。また、「摂政」はそもそも「国母」の代行であったというお話は、参加された方々も新鮮に受け止められた様子でした。

このほかにも、婿取婚における家族の同居形態についてのお話や、「三日夜餅」（みかよのもちい）についてのお話、また『蜻蛉日記』における著者・藤原道綱母の執筆意図についてのお話や平安時代の「九×九」のお話など、次々に繰り出される話題に、参加された皆さんも興味津々で聞き入っておられました。

ご講演の最後、「一種物」（いっすもの。先生曰く平安時代当時の「持ち寄りコンパ」）のお話に関連して、「動物性食物の調理は古代から江戸時代まで男性の役割だった」というお話もされましたが、これは聞いていて思わずドキリとした男性もいたかもしれません。先生によれば、藤原道綱も料理が得意だったそうです。

2時間のご講演でしたが、ユーモアを交えながら、明るく、わかりやすくお話しいただき、あっという間に終了の時刻を迎えました。

参加された方からも「ドラマと史実との違いがわかっておもしろかった」「当時の階級ごとの生活事情、恋愛結婚事情などが興味深かった」などのお声を頂戴しました。

府中市立図書館では、最新刊『「源氏物語」の時代を生きた女性たち』（NHK 出版 2023 年）を含む服藤早苗先生のご著書を多数所蔵しています。ぜひお読みいただきたいと思います。